

国保税もっと下げられる

4 軒に 1 軒は支払いに困っている

「県下でいちばん高い」国保税の引き下げを求めた昨年日本共産党市議団の問題提起を受けて、鈴鹿市は今年、平均 5 % の引き下げを行ないました。しかし、もともと 30 % もの大幅引き上げをした後の小幅引き下げであり、市民にとっては依然として高い水準になっています。9 月 9 日の市議会本会議で、私はさらなる国保税の引き下げや減免を求めました。

県の資料によると、本年 6 月現在の鈴鹿市の滞納世帯は 9 0 6 2 世帯、国保加入世帯の 27.8 % で、県平均 16.8 % を大きく上回ってトップになっています。またその半数が、正規の保険証を渡されず、「資格証明書」「短期保険証」というペナルティを受けています。市民の健康な生活を保障するはずの健康保険が、逆に市民を苦しめ、医者にかかる権利を奪われるという事態になっているのです。

1 1 億円もある黒字、基金残高の還元を

一方、国保会計は 16 年度決算見込みで 6 億 9 千万円の黒字となり、支払準備基金 4 億 4 千万円と合わせて 1 1 億円余にのぼります。3 年前の大幅値上げの時の説明では、値上げしても会計は赤字、基金が 1 億円ほどしか残らないという予測でした。ところが実際には大黒字で 10 億円もの見込み違いとなり、結果として「値上げは必要なかった」ことになりました。私は「したがってこの黒字を還元する意味で、もう一段階の引き下げを検討することは可能であると考えますが、そのつもりはないか」とただしました。市当局は、検討を行なうと答弁しました。

また私は、短期保険証についても鈴鹿市は発行数が非常に多いが、もっと市民の滞納の事情をよく聞き、ていねいな相談をすることを求めました。

でたらめな焼却灰処理料金値上げ

県の「廃棄物処理センター」（四日市市小山町）に、鈴鹿市はじめ多くの自治体がそれぞれのごみを焼却した「灰」の溶融処理を委託しています。ところが、その処理料金が最初1トン当り2万円としたのが、1年もたたないうちに2万8千円に引き上げられ、さらに今後3万5千円、4万2千円と引き上げる予定とされています。

鈴鹿市も最初は、市清掃センター（御園町）に灰溶融施設をつくる予定でしたが、県のセンターが非常に「安い」料金に（最初の説明は1万5千円）したので、そちらに参加したのです。ところが、この低料金は多くの自治体を誘うための「ウソ」だったのです。県の言うとおりの値上げになれば、鈴鹿市は年1億円以上の負担増をかぶることになります。

県に「最初の約束守れ」ときびしく求めるべき

9月議会の一般質問で私は、県のやり方は「リフォーム詐欺」と同じ手口で、「最初は安く誘っておいて、あとで高い料金を吹っかけるという詐欺的なやり方は、まったく不道徳」であり、こんな理不尽な値上げには応じないことを、強く求めました。市当局も「協議会の場で、しっかり意見を言う」と答えました。

県スポーツガーデンに体育館や宿泊施設を新設

県営鈴鹿スポーツガーデン（御園町）の「第3期整備計画」として、体育館、宿泊棟、レストハウス（食堂）が建設されることになりました。完成は平成19年3月の予定です。

この施設には、鈴鹿市土地開発公社が10年以上かかえている用地のうち1.8割が充てられます。内訳は、体育館に1.15割（県が約1億円で買い取り）、宿泊棟などに0.66割（市が約6600万円で買い取り、県体協に貸与）ということで、開発公社の保有地がまた少し片付きました。

市はスポーツガーデンの誘致の条件として、すでに19割の土地を県に提供しています。また、その他にも土地開発公社はまだ4割ほどの未利用地を保有していますが、計画内にあるのは0.8割ほどで、あとの3割ほどは当分利用の見通しはありません。

衆院選挙、日本共産党は前回並みの5270票

突然の解散による9月11日投票の衆議院選挙で、日本共産党は小選挙区で5624票、比例代表で5270票という成績でした。「小泉旋風」や「二大政党の流れ」の中で、しっかりとご支持いただいた皆様に、心から感謝いたします。

「巨大与党の誕生」「改憲勢力が圧倒的多数」という事態に、「これから日本はどうなるのか」、「ますます悪政が大手を振るのか」との心配の声が寄せられています。また、前回までは「共産党は力が小さい」という意見が多かったのが、今回は「共産党に頑張ってもらわねば」との期待の声が増えてきています。ますます責任重大だと感じています。

数はたとえ少数でも、国会にも地方議会にも日本共産党の議員がいて、草の根の国民・市民の声を代表してがんばっているということの意味を、あらためて胸に刻んでいこうと思います。

色とりどりの熱気球、空いっぱい

9月18日、鈴鹿川の河原で「バルーンフェスティバル」の熱気球を、間近に見ました。つぎつぎとタンポポの綿毛のように空に向かって飛び立っていく気球に、子どもたちは大喜び、大人たちも童心に帰ってポカンと眺めています。私も見ているうちに、昔はやったこんな歌を思い出しました。

もしもボクの背中に 羽が生えてたら
みにくい争いする人たちに お空の上から
清くきれいな世界を作ろうと 言うんだよ

今年は天気があまり良すぎて、コメは減収(？)

毎年、1反の田んぼでコメを作っています。いちばん取れた時は、レンゲを肥料にした年で8俵もありましたが、去年は7俵、さて今年は天気も良く、水加減もきちんとしたので、悪くても去年並みか、と予想していました。ところが収穫してみると、何と6俵しかありませんでした。

コメ作りのプロの話では、あまりガンガン晴れていると、いくら下に水が十分あっても、上から雨でかかる水もないとコメの実入りは良くなれないとのこと。よし、来年こそは豊作にするぞ！

ずいそう

独裁者ヒトラーを生んだ背景

ドイツ映画「ヒトラー、最期の12日間」は、ヒトラーを生んだドイツの映画人が初めて、この独裁者を正面から描いた作品である。世界的な話題になった映画なのに、日本ではちょっとしか上映されなかったのは残念である。

ナチス国家崩壊が目前となった1945年4月、首都ベルリンの首相官邸の地下要塞ではヒトラーが、その取り巻きたちにもはや不可能な「反撃」の指令を連発している。その間も、地上のベルリンの街は連日ソ連軍の攻撃で破壊され、多くの市民が犠牲になっている。

ここからの避難と、3百万市民を救うために降伏を進言する部下に、ヒトラーは髪を振り乱して怒鳴りつける。「市民が何だ。彼らがこうなることを選んだのだ。自業自得だ！」

民主的制度の下からでも独裁政治はうまれる

ヒトラー率いるナチスは、最初から軍事独裁が出来たのではない。民主的共和制を樹立したワイマール憲法の下で、10年かかって国会で多数の議席を得て、33年首相になるや政党や労働組合の解散を強行し、大統領と軍指揮官の権限を一身に集めた「総統」となり、一党独裁を確立したのである。ヒトラーが市民に「自業自得だ」と言ったのは、「自分を選び、支持し、熱狂的についてきた国民に責任がある」という意味なのだろう。こうなる前に防ぐこと、ヒトラーに政権を与えないという選択肢も、理屈としてはあっただろうが、国民はヒトラーを選んだ。

しかし、実は国民はヒトラーの大ウソに乗せられたのである。33年「国会放火事件」のでっち上げはその最たるもので、犯人は共産党だとして当時81議席あったドイツ共産党を追放、反対勢力を一掃してワイマール憲法を廃棄し、一挙に独裁体制を確立したのである。歴史の大きな曲がり角には、いつもウソとペテンがつきものである。

日本の今回の衆議院選挙は、日本中が小泉首相の大ウソに流されてしまった感がある。「郵政民営化の賛否を問う」と言いながら、中身は一切語らずに最後までスローガンだけで押し切られた。小泉＝ヒトラーなどとは言わないが、何か国会がおかしなムードになって来た。要注意だ。